

## 海域の概要

本湾は、熊野灘に面した湾で、リアス式海岸地形を持っています。湾奥には尾鷲港があり、イワシやブリの水揚げが盛んです。



尾鷲湾

## Specification

### 諸元

湾口幅：2.6 km

面積：19.65 km<sup>2</sup>

湾内最大水深：5.8m

湾口最大水深：5.8m

閉鎖度指標：1.70

備考：環境基準類型指定水域

## Location

### 範囲または位置

三重県尾鷲市尾南首鼻と同市モト鼻を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。

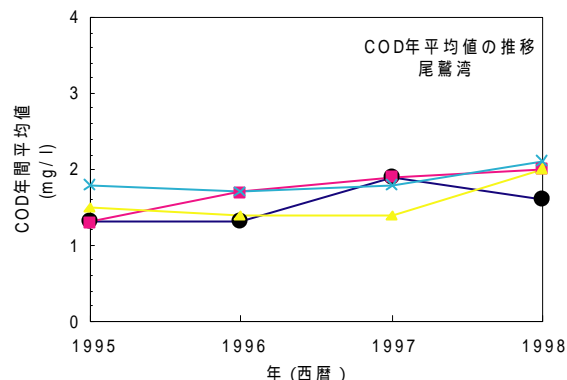


## 環境

尾鷲湾は、河川を通じての陸域からの汚濁物質の流入や魚類養殖の給餌により、水質悪化が進んでおり、COD年間平均値は2mg/l以下程度で推移しています。底質は砂泥質となっています。

なお、尾鷲湾では1975年に国内で初めて渦鞭毛藻による麻痺性貝毒による被害がありました。

また、湾奥には火力発電所があり温排水が放流されていて、その環境影響調査がつけられています。



## 自然

尾鷲湾は、山地が海まで迫り、岬部等外洋側には海蝕崖が発達し、海蝕洞、岩礁等も多く、複雑で変化に富んだ景観を呈し、湾口部は吉野熊野国立公園に指定されています。

湾口付近の岩礁部にはホンダワラ類やヒロメの藻場が分布し、1995年からはホンダワラ類の藻場を人工的に造成する試みも始められています。湾内では潮干狩りが行われる他、湾口部付近はダイビングスポットとして人気があります。

尾鷲湾の入り口中央部に佐波留島があります。佐波留島は、温帯性の常緑樹林に覆われ、主な樹種は、クロマツ、アカマツ、スダジイ、タイミンチバナ、ヒメユズリハ、シャリンバイ、ヤブツバキなどで、樹陰には、サカキズラ、ナギランなどが見られます。

この島の太平洋に東面した熊野酸性岩類は、柱状節理をなして、その断崖絶壁のゆえに、容易に外敵を寄せつけることがないので、鳥類の生息や繁殖に、もっとも安全な条件となっています。この島に生息する主なる鳥類は、アオサギ、ゴイサギ、アマツバメ、クロサギ、シロサギで、これらの鳥類が太平洋岸に巣を作っているのは、非常に珍らしく、日本でも最大のコロニーと考えられています。

また、桃頭島は、「トウカシラ嶋」とよばれており、紀伊半島だけにしか生息していない「サガツヤヒラタゴミムシ」(昆虫)が発見されています。



アオサギの佐波留島

## 文化歴史

掛磯の夫婦岩は神の神聖な場所として、注連がかけられてきました。この注連かけ神事とは、現在尾鷲神社に奉納されている獅子頭が大曾根浦のこの岩に流れ着いた事に由来していると言われています。三重県神社誌によれば、獅子頭の制作は文禄(1592年)の頃からであるということから、この神事も文禄年中から続いているものと思われます。



掛磯の夫婦岩

## 産業

尾鷲市では、水産業と林業が有力な産業となっています。水産業は熊野灘で採れるカツオが有名です。また、尾鷲湾は魚類の養殖が盛んなところで、栽培漁業にも力を入れており、漁協等でトラフグの中間育成を行い、天然海域に放流しています。

林業は背後の紀伊山地から伐採されたヒノキやスギ等の木材を出荷しています。